アジャスト「がん保険ナビ」開発へ

がん保険の支払いを支援

保険会社の査定業務を支援している㈱アジャスト（東京都渋谷区、横溝宏昌社長）が確実ながん保険金の支払い査定をサポートするシステム「がん保険ナビ」（仮称）の開発に着手した。複数の保険会社からの要請に応じたもので、10月に提供を開始する。

画面詳細：検索結果候補表示

No.	項目	備考
1	名称	検索結果の名称を表示
2	ICD-O Code	ICD-O Codeの表示（1つの検索に対して複数Codeもある）
3	ICD-O Status	登録状況のステータスを表示（反転色は正式発表待ち）
4	英語名称	登録英語名称
5	メモ	リンクがある場合にはマウスオーバーで内容を表示する。
6	改廃履歴	改廃履歴がある場合には件数を表示する。
7	他名称該当	ICD-O Codeの左4桁と同じコードが該当する件数を表示。

←左記画面は表示用のサンプル画面です

がんは日本人の死因の一位で、２人に１人が罹患（りかん）すると言われる。２０１２年度のがん保険の保有契約件数は生保会社だけでも２０５４万件で保険種類別の占率は15・1％、新契約件数は１４２万件に達している（生保協会「生命保険の動向２０１３年版」）。そうした状況下、ほとんどの保険会社が約款上は厚労省の「疾病、傷害および死因統計分類概要（ＩＣＤ－10）」のＣコード（悪性新生物）に基づくがん保険の支払いを明記しているが、より適正な支払いをするために国際保険機関（ＷＨＯ）の「国際疾病分類腫瘍学（ＩＣＤ－Ｏ）」を活用する動きが急速に広がってきた。一方で、ＩＣＤ－Ｏについては情報収集手段が極めて限定的なため査定部門が苦慮している実態がある。

査定部門のサポート一層強化

「がん保険ナビ」は、診断書に書かれた病名で検索するとＩＣＤ－10とＩＣＤ－Ｏのコードをリンクして表示する仕組み。病名を入力すると、該当する傷病名の一覧と、傷病名に付随する情報の概要が示され、詳細情報の閲覧が必要な場合には、クリックして次画面（選択項目詳細）で確認できる。その画面で、コード、項目名、同一コードの別名称一覧などのほかにコード改廃履歴を見ることができるのも特徴だ。

同社医療情報部の岡明子部長は「現在、英語によるＩＣＤ－ＯのリストはＷＨＯのＨＰでオンライン閲覧できるが、同様の日本語版はない。ＷＨＯが腫瘍専門のＩＣＤ－Ｏを発表したのが２０００年で、厚労省が日本語翻訳版冊子を刊行したのは03年。日本語版の発行には時間がかかり、その後の改定が反映されていない。そのため、保険会社の査定担当者が必要な情報の検索に手間取っているのが現状だ。そこでＩＣＤ－Ｏの情報を簡易に検索・参照できるソフトの開発を決めた」と話す。

不払いが問題になって以降、適切な支払いを目指している保険会社からはＩＣＤ－Ｏをパソコンで検索できるシステムの要望が高まり、自社内でのシステム化を検討する会社も出てきている。岡部長は「がん保険の保有契約は毎年右肩上がりで増えており、支払い件数も確実に増加していく見通しだ。査定部門のサポートを一層強化していきたい」としている。